

地球科学輻合ゼミナール (2011年度 前期 第6回)のご案内

「地球科学を見てもらう」プロジェクトの紹介と 地震後に生じる超高層大気の擾乱

齊藤 昭則

京都大学 大学院 理学研究科 地球物理学分野

地球科学のデータを幅広く見てもらおうとする「ダジック・プロジェクト」の紹介と、地震の後に起こる高度300km付近の超高層大気の擾乱についての紹介を行う。地球科学では多様なデータが測定され、公開されているにも関わらず、限られた専門家からしか利用されていない。多くの場合は、データの存在すら知られていない事が多い。「ダジック」はこのようなデータを探し出すことを簡単にする事を目的とした、データを可視化し、視覚的にデータを探し出す仕組みである。視覚的なため、研究者以外の専門知識を持たない人へ地球科学を説明するのにも適しており、小中高校での授業、科学館での展示に利用され始めている。この「地球科学を研究者と社会に見てもらう」プロジェクトについて、現状と今年度の計画を紹介する。

2011年3月11日の東北太平洋沖地震は、固体地球の震動としての地震波、海洋の震動としての津波に加えて、大気の震動も起こしており、その震動は高度300kmの超高層大気領域まで到達していた。この地震後に観測された超高層大気の擾乱についての観測結果を紹介する。

6月1日(水) 午後4:30~午後6:00

場所: 理学研究科6号館 303号室